

池で観察

池といっても、大きなものから水たまりに近いような小さなものまでさまざまですが、比較的小さな池のほうが観察しやすいでしょう。

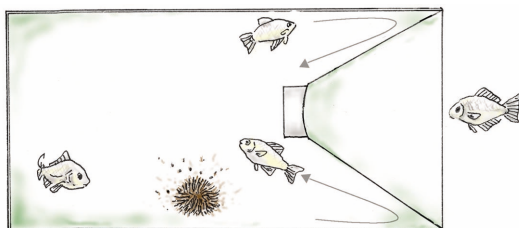
池でも危険を伴うことがありますので、子供は必ず大人の人と一緒に観察しましょう。また採集する場合には、池の持ち主に了解をもらうことも忘れないで下さい。

Point1 魚を採る

池の中の魚は、岸からはなかなかみつけにくいものです。メダカやカダヤシは、水面近くを泳いでいるので、慣れればそれとわかります。コイやギンブナなども、時々水面近くに浮かんできますが、やはり採って見ないと正確な種類はわかりません。魚を採るにはいろいろな方法がありますが、ここでは「モンドリ」という罠を使ってみましょう。

モンドリは「ウケ」とか「ビン」などともよばれますが、エサを入れた容器に魚を誘い込む道具（罠）のことです。材質は竹やアミなどもありますが、釣り具店でよく売られている「セルビン」とよばれるものが最も手軽です。ペットボトルを利用して自分で簡単につくることができますので、ぜひ試して下さい。

この罠の共通した特徴は、入り口に「もどし」がついていることです。魚は罠の中に入ると、壁つたいに泳ぐ習性があります。入り口では「もどし」のため、また中に戻ってしまうのです。誘うためのエサは、釣り餌のさなぎ粉が手軽です。



～「もどし」の構造～

このモンドリを魚がいそうな場所に沈めておくと、意外と簡単に魚やアメリカザリガニ、スジエビなどが入ります。うまくいかない時は場所を変えたり、エサなどを工夫してみましょう。水中に魚がかくれる場所がたくさんあるところに、魚が多く集まります。これをヒントにして下さい。



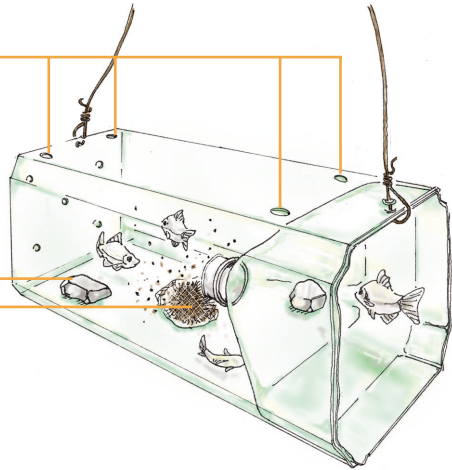
152. アメリカザリガニ

水温の高い季節であれば1～2時間ぐらいで充分ですが、冬はもっと長い時間がかかるようです。あまり長くつけておくと、中に入ったアメリカザリガニが魚を食べてしまうことがあります。

空気穴よすみを四隅にあける

重りを入れて沈める

エサ（ネットなどに入れる）



～ペットボトルを利用したモンドリ～

と採った魚はバケツなどに移して、図鑑ずかんなどで名前を調べて記録しておきましょう。

多くの池を調べてみると、たくさんの種類の魚がすむ池と少ない池がわかってきます。最近ではブラックバス（オオクチバス）やブルーギルなどの外国から来た魚（がいらいぎょ外来魚）を池に放流して、釣りを楽しむ人が増えたために、もともとすんでいた日本の魚がどんどん減ってしまいました。外国から来たこれらの魚はほとんどが比較的大型の肉食性の種類で、他の魚やエビなどを食べつくしてしまうからです。このような池にモンドリをつけると、ブルーギルだけがたくさん入ってしまい、池の中の生態系せいいたいけいがこわされていることがわかります。悲しいことに、この傾向は日本全国に広がっています。

Point2 トンボを^み観る

池とトンボを^{くわ}詳しく観察すると、環境と生きものの関係をよく理解することができます。ここでは、池のようすにより、そこにすむトンボにどんな違いがあらわれるかをみていきましょう。

なお、多くのトンボは春から秋までみられますが、季節によって種類や数が違います。同じ場所でも、季節をかえて観察してみるとおもしろいでしょう。

平地や丘陵地にあるため池

^{きしべ}岸辺が急に深くなっているため水生植物が少なく、トンボの種類や数も少ないのが一般的です。^{きしべ}岸辺近くにいるのはシオカラトンボがほとんどですが、大阪府の南部の池ではウチワヤンマやナニワトンボがみられることもあります。池の上では、ギンヤンマやオオヤマトンボがパトロールをしながら飛んでいます。



153. 平地や丘陵地にあるため池

トンボの観察には、できれば^{そうがんきょう}双眼鏡（8倍程度）を使うことを^{すす}お勧めします。最初は、トンボを^{しや}視野の中におさめるのに苦労しますが、すぐに^な慣れてきますし、正確に特徴をとらえることができるようになります。止まっているトンボで練習を始めて、飛んでいるヤンマを^{そうがんきょう}双眼鏡で追えるようになると一人前です。もちろん、アミで採集ができればいうことはありません。



154. シオカラトンボ



155. ウチワヤンマ

周囲に木が多い池

大きさが同じような池でも、周囲に木が多いか少ないかで、みられるトンボも大きく変わってきます。周囲に木が多い池では、池の水面に木陰こかげが多くなり、コシアキトンボが多くみられるようになります。このトンボは腰（腹部あぶのつけ根）のあたりが鮮やかな黄色や黄白色で、暗い場所で飛んでいると腰の色が目立ちます。そのため、「電気トンボ」とよんで親しむ人もいます。

また、薄暗うすぐらい場所が好きなオオアオイトトンボやモノサシトンボ、ヤブヤンマなどのほか、オオシオカラトンボやクロスジギンヤンマなどがみられます。平地や丘陵地のため池とは少し違うトンボがいて、種類も少し多くなります。



156. 周囲に木が多い池



157. コシアキトンボ



158. モノサシトンボ



159. オオシオカラトンボ



160. オオアオイトトンボ

水生植物が たくさん生えている池

少し山の方へ行けばこのような池がありますが、最近では大変少なくなっ
てしまいました。池の底に泥がたまって浅くなったほうが水生植物が生えやす
いので、^{ほうち}放置された山間の水田跡などがねらい目です。

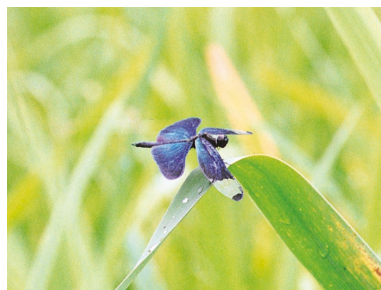


161. 水生植物がたくさん生えている池

ここでは、まずトンボの数の多いことおどろに驚きます。種類も平地の池とは違うよ
うです。最も目立つのは真っ赤なショウジョウトンボ、チョウのようにフワフワ
と飛んでいるチョウトンボきしべでしょう。岸辺の草の近くでは、黄色が鮮やかなあざキ
イトンボがゆっくりと飛んでいます。ここでしばらく待っていると、クロスジギ
ンヤンマやオオルリボシヤンマ、オニヤンマなどの大きなヤンマ類やエゾトンボ、
トラフトンボなどがかわるがわる飛んできて、あきることがありません。



162. ショウジョウトンボ



163. チョウトンボ



164. キイトンボ



165. オオルリボシヤンマ